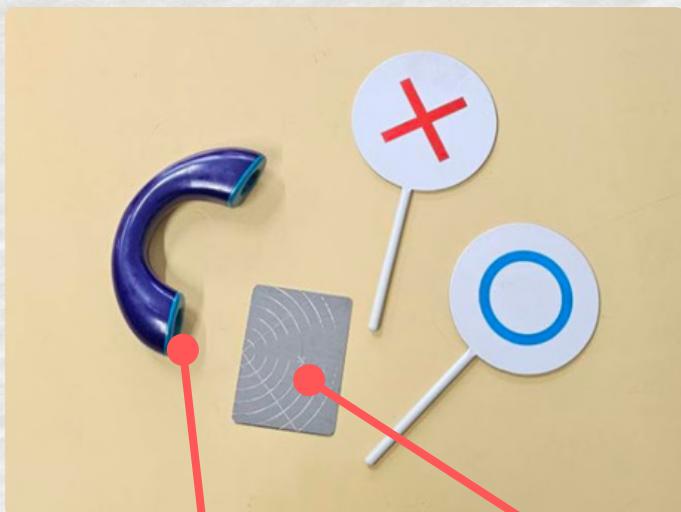




長野県PTA新聞

しんしゅう

第242号



とある授業で使う秘密道具
どのように使うものか
みなさん分かりますか？



答えは記事の中にはあります
ぜひ読んで探してください！

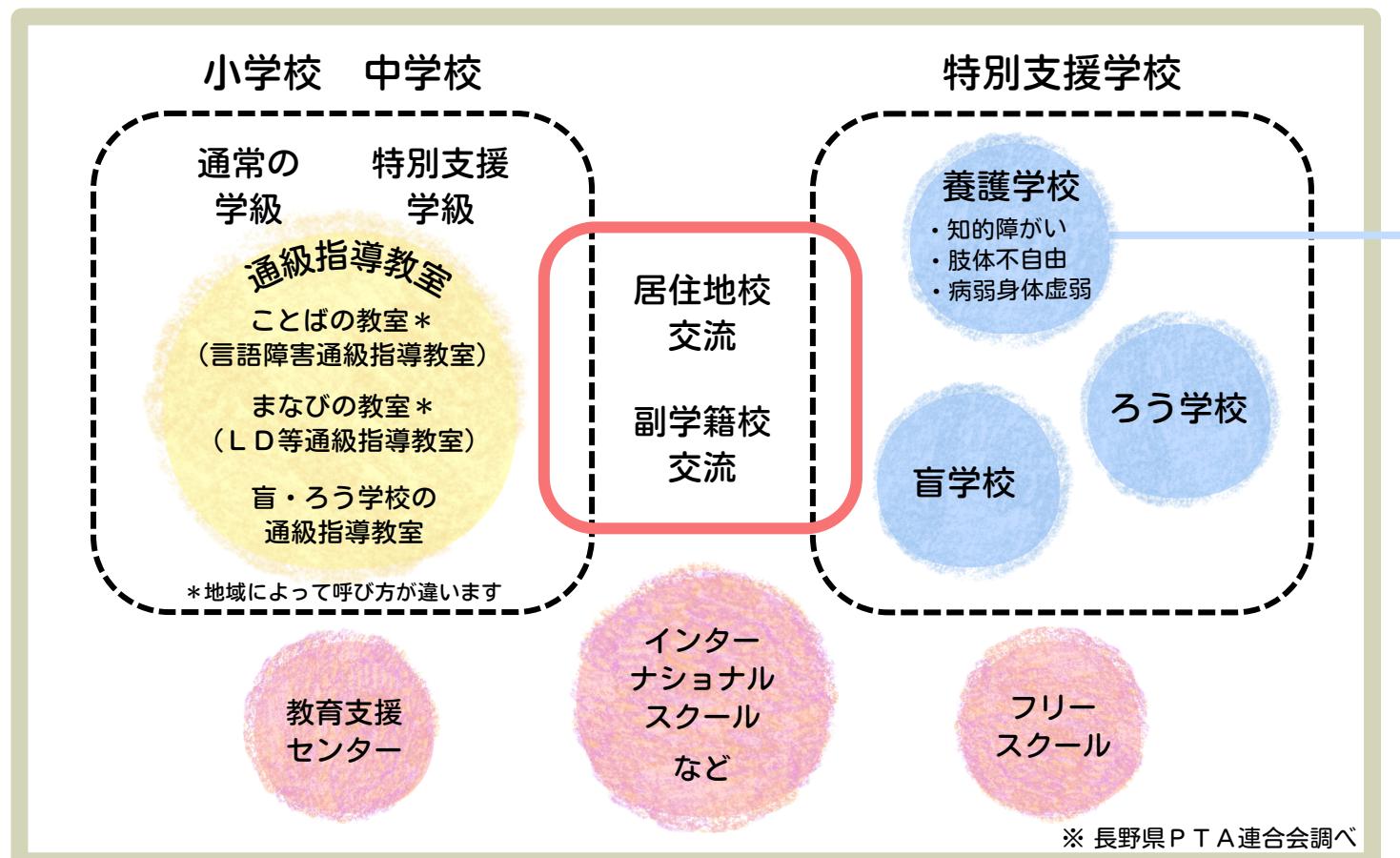
特集 子どもたちを支える学びの場
どうなるの？これからの中学校プール



特 集 子どもたちを支える 学びの場

下の図は、小学校・中学校・特別支援学校を中心として学びの場をまとめたものです。「聞いたことはあっても詳しくは知らない」「関心はあるけれど誰に聞いたらいいか分からず」という人が多いのではないでしょうか？

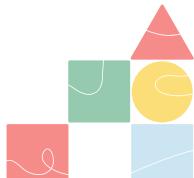
今号では、子どもたちを支えている学びの場の説明や、長野県内の学校の紹介をします。



特別支援学校

障がいの程度が比較的重い子どもを対象とした学校。県内には20校（国立1、県立18、市立1）あります。長野県では、学校施設が子どもたちの可能性が最大限伸びる学びの場で、共生社会の実現に向けた協働の学びをサポートする場になることを目指しています。

長野県は令和8年4月より「養護学校」の名称を使用していいる14校の校名を「支援学校」に変更します



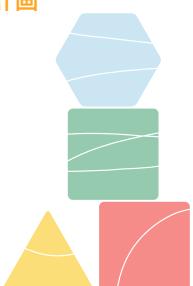
特別支援学級

障がいのある子どもを対象とした、少人数の学級。各教科の学習に加えて自立活動（学習や生活の困難の改善・克服を目指す活動）を行います。

通級指導教室

通常の学級に在籍し、一部特別な指導を必要とする子どもが対象。週に8時間以内で、一人ひとりの状態に応じた自立活動（学習や生活の困難の改善・克服を目指す活動）を行います。原則、教室が設置されている学校まで児童生徒が通って指導を受けます。令和7年度までの長野県の設置教室は199教室。巡回指導実施教室（サテライト教室）は152教室。

長野県が目指す教育の未来とは？
第4次長野県教育振興基本計画





ことばの教室

いいづな 飯綱町立三水小学校

長野県の北部に位置する飯綱町はりんごの名産地です。見晴らしの良い高台にある三水小学校。校舎の一角の静かな場所に「ことばの教室」があります。

児童たちに指導を行う柴田勝幸先生にお話を聞きました。

● ことばの教室とはどのような教室ですか？

小学校の児童を対象とした通級指導教室の一つです。ことばの教室はまだ認知度が低く当事者以外の保護者や、先生の中にも知らない人がいます。

● どのような子どもたちが通っていますか？

正しい発音ができない、言葉のリズムがなめらかでない、使える言葉がなかなか増えない、話したい内容をうまく伝えられず言葉のやり取りがうまくいかない、話し始めの音が詰まって出にくい（きつ音）など「話すこと」が苦手な児童が通っています。

多くの児童は幼稚園・保育園、医療機関の先生からの紹介で入学と同時に通い始めますが直接ご家族から問い合わせがくることもあります。

● ことばの教室にはどのように通いますか？

授業は原則週1回です。この教室には飯綱町、信濃町、長野市から通ってきます。自校の児童は自分の教室から直接来ますが、他校の児童は保護者の送迎で通っています。放課後の場合がほとんどですが、1時間目や6時間目を抜けて通う児童もいます。

● 他の教室から離れた場所にあるのは、何か理由がありますか？

授業では自分の声をしっかり聞きとり発音することが重要です。そのために、外部の音が届きにくく集中しやすい場所に教室を設置しています。他校の児童が送迎してもらう際に車を停めやすい場所にもなっています。

秘密道具その①
スピーチシュウ



自分の声を耳元で聞くと
正しい発音ができているか
よくわかります

● 教室ではどのように学んでいますか？

児童と先生が一対一で指導をしています。それぞれ苦手なことが違うので個別に必要なことをトレーニングします。発音を直すのはとても大変です。苦手なことを繰り返すので、教科の学習を取り入れたり、遊びやゲームの要素を取り入れながら楽しく学べるように工夫しています。

● トレーニングの内容は？

か行の発音が苦手な場合はガラガラうがいをします。水の量を徐々に減らして、水のない状態でガラガラと言えるようにします。か行の発音は舌の根本を使うのでこの方法が有効です。家庭でできることはやるよう声掛けをしますが、やりすぎは逆効果なのでほどほどにとお願いしています。

秘密道具その②
鼻息鏡



鏡のくもり方で発声する
ときの息の方向や強さを
目で見て確認できます

● ことばの教室の課題はありますか？

①認知度の低さ。広く周知されないと、指導を必要とする児童につながりません。

②保護者の負担の大きさ。送迎の都合がつかずに通えない児童がいます。

③先生が足りない。若い先生がいない。50代以上の先生がほとんどで、定年後に続いている先生もいます。

柴田先生ありがとうございました。

長野県言語聴覚士会
ホームページに教室
設置校の一覧が載っ
ています。子どもの
ことばが気になると
きは気軽に相談して
ください。

信州の牧草を食べて
信州の酪農家の愛情いっぱいに育った牛の牛乳を
信州の人々飲んで育つ
わたしはメイドイン信州100%
わたしはメイドイン信州100%

100%
信州産

わたしはメイドイン信州

長野県牛乳普及協会・長野県生乳生産販売委員会・JA全農長野



すざか 須坂市立須坂小学校 + 須坂支援学校



● 須坂支援学校の成り立ちについて聞かせてください

始まりは「地域の学校で子どもを学ばせたい」という保護者の声でした。その頃須坂市の子どもは、長野・稻荷山・飯山いずれかの養護学校に保護者の送迎で通うか、寄宿舎に入り家族と離れて生活していました。「地域の子どもは地域で育てる」という須坂市の理念とも重なり、準備期間2年を経て開校しました。

● それぞれの教室などはどうなっていますか？

同じ校舎の中で隣り合わせに支援学校の教室と小学校の教室があり、昇降口や体育館、トイレなどは共用です。休み時間や給食、掃除の時間を合わせて日常生活の中で子どもたちが自然にかかわりを持てるようにしています。休み時間には両校の子どもたちが入り混じって遊んでいますよ。



隣合せの昇降口
おはよう！また明日！
毎日一緒に



手前は
小学校
奥は
支援学校
そこに
境界線は
ありません。



小学校の職員室には
支援学校の
お便りコーナー。

開校152年の伝統がある須坂市立須坂小学校。同じ校舎の中にある須坂支援学校は、平成23年度に開校した長野県で唯一の市立の特別支援学校です。

一つ屋根の下、ともに育つ両校の子どもたちについて、水倉美和子校長先生にお話を聞きました。



両校の校長を務める
水倉 美和子先生
&
支援学校公式キャラクター
どんちゃん

子どもたちが誰に対しても優しい。その優しさは教えたものではなく、支援学校の子どもたちとずっと接してきて彼らが学んで得たもの。「色々な人たちがいるのが当たり前の世界」という何事にも代えがたい価値観をこれからも大切にしたいと思います。

須坂支援学校の 校名に込められた願い

全ての子どもが
それぞれのニーズに応じた
教育を受ける必要がある

特別な支援（教育）ではなく、
個に応じて分け隔てなく教育を
受けさせたいという願いを込め
「特別」を入れず「須坂支援学
校」という校名になりました。

● 子どもたちの様子を教えてください

支援学校の子どもたちの中には集団が苦手な子もいますが、小学校の子どもたちとの楽しい経験の積み重ねで、家族や身近な人以外への抵抗が減っていきます。学校の外で会ったときにも「あ！須坂小の先生こんにちは！」と自分からあいさつするなど積極的にかかわることができる子もいます。小学校の子どもたちは、運動会などでのびのびと自分を表現する姿を見て「また一緒にやりたい！」と感じたり「どうしたら一緒に楽しめるか？」を自分たちで考えたりするようになりました。

● 保護者の声はどうですか？

支援学校のある保護者は「子どもも出かけたときに須坂小の子が声をかけてくれることがあってとても嬉しい」と話してくださいました。小学校の保護者からは「須坂小の子どもたちの、友達を見るまなざしがとても温かい」「須坂小で学べる自分の子どもが羨ましい。自分もこういう環境で学べいたら、もっと他者とのかかわり方などが違っていたのではないかと思う」という声があります。



2024年度から引受保険会社がAIG損害保険に変わりました

信州子育て応援総合補償制度

～大切なお子様のための補償制度～

長野県PTA連合会安全互助制度

～PTA活動を安心して行うために～



AIG損害保険株式会社 松本支店
〒390-0814 松本市本庄1-3-10 大同生命松本ビル
Tel: 0263-35-1933
受付時間: 午前9時から午後5時まで（土・日・祝日・年末年始を除く）
<https://www.aig.co.jp/sonpo>

長野県PTA連合会

AIG AIG損保

● 両校の交流について教えてください

運動会、音楽会などの行事は合同で行っています。休み時間などの自然な交流以外にも「たてわり班交流」や「プレイルーム交流」などグループ交流の時間を設けています。たてわり班交流のグループは、1年生から6年生、そこに支援学校の子どもたち。まさにごちゃまぜ！両校の先生間で事前に何度も打ち合わせをしますが、うまくいかないときもあります。次に活かすこともあるれば、その場で子どもたちと一緒に解決できることもあります。

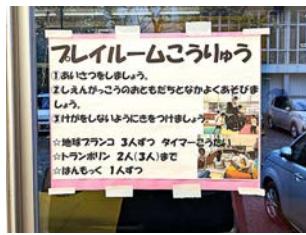
● 例えなどんなことですか？

集合写真を撮る際に、整列する場所にどうしても並べない子がいた。さあどうしよう？というとき、子どもたちが「みんなで○○さんの周りに集まればいいじゃん！」となり写真を撮ることができたんです。まとめ役の6年生が困ってしまう場面もありますが、そこを含めたプロセスが大切だと考えています。いろいろ起こって当たり前。大変だから別にやるのではなく、子どもたちが本当に楽しめたり、より良く過ごしたりするにはどうしたらいいのか？をみんなが納得するまで考えます。

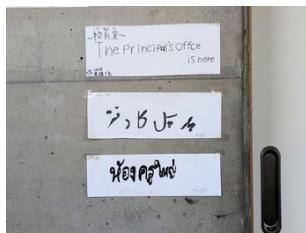
● 先生たちについて聞かせてください

小学校の先生方には、1学期の間に支援学校の生活を体験して一緒に活動する時間を設けています。支援学校の子どもたちが先の見通しを持ちやすくし、自分で行動するためのさまざまな工夫は、小学校（特に低学年）でも活かせることができます。

支援学校の先生の子どもたちに接する姿が、子どもだけでなく先生方にとっても接し方を考えるきっかけとなっています。何でもかんでも手を差し伸べてやってあげると自立の妨げになってしまいます。必要な支援を必要な分だけ行い、その子が自ら動き出すのを待ち、見守ることを大事にしたいと思います。



少人数で行うプレイルーム交流は開校当初から続く伝統の行事。自分の順番が来るのを子どもたちが楽しみにしています。



上から順番に英語・ウルドゥー語・タイ語の「校長室」です。
小学校には外国籍の子どもたちも通っています！



小学校



支援学校

校章の由来

両校の校章に使われているくぬぎの葉。くぬぎの葉とどんぐりは、平安時代に学校のある地域が桐原荘（くぬぎはらそう）と呼ばれていたことに由来しています。支援学校の校章をデザインしたのは当時の須坂市内の中学生。スの字亀甲（市章）はあたたかな地域住民の心を表し、地域の中で明るく元気に育つ子どもの姿を願い平成25年に制定されました。

● 両校にかける先生の思いを聞かせてください

開校時は4人だった児童が、小学部31人、中学部8人に増えました。支援学校の職員も増え、物理的な場所の問題が出てきています。しかし、一緒にやることが大変だととらえるのではなく、むしろ大変なことがあるのが大事だと考えたいと思います。みんなで知恵を出し合って解決していく。思い通りにいかなくても、そういう先生たちの姿を子どもたちに示し子どもと一緒に考えていくことが大切。一度でベストな答えが出なくても、解決に向け、みんなで考えるプロセスを大事にしたいと思います。

「子どもたちは学校で過ごす期間よりも卒業した後の年月のほうがはるかに長い。地域の中に、学校や家族以外の本当に理解してくれる人がたくさんいたり、お互いが自然でいられる関係を築いたりすることが、子どもたちの未来には必要なのだ」という言葉が心に残っています。水倉校長先生、ありがとうございました。

「食」で学び舎を支える。



よい食材でたのしい給食

長野県学校給食会は学校教育活動の一環として行われている学校給食の円滑な実施及びその充実発展に努め、学校給食における食育の推進を支援することにより、児童生徒の心身の健全な発達及び広く県民の健全な食生活の実現に寄与することを目的としております。

学校給食物資は、主食と副食がありますが、本会では、主食の原料となるコメや小麦粉を仕入れ、炊飯やパンの加工工場に製造を委託し、県下の各学校へお届けしています。副食については、缶詰、乾物、ハム、冷凍食品などの物資を供給しています。また、食育支援事業として、県産物を活用した献立コンクール、レシピ集の発行、パン審査・品質向上研修会などを実施しています。これまでに、関係機関と共に、県産物を活用した商品も開発し供給しています。

子どもたちのために 公益財団法人 長野県学校給食会

T381-0103 長野市若穂川田3800番地5
TEL 026-282-6080 FAX 026-282-6535



どうなるの？これからの学校プール

今、学校のプールが曲がり角にある。最近目にした記事（※1）によると
●プールの老朽化が進み維持管理費の負担が増加している ●水質管理や安全管理のための教員の負担が大きい ●温暖化により熱中症のリスクがある
●水泳の授業に参加しない児童生徒が増えている（水に入りたくない、水着に抵抗がある）などの理由から、水泳の実技を行わない、または民間の施設に委託する学校が増えているという。長野県内でも、屋内の施設に移動して水泳の授業を行う学校が増えてきている。「6年生の半数、50メートル泳げず コロナ禍で習う機会激減—豪」という記事（※2）では、水泳大国といわれるオーストラリアの学校でも水泳の機会が激減していることが紹介されている。



屋内施設の利用は、移動に時間がかかるが天候に左右されず授業時間が確保できる利点もある。



水泳は関節や筋肉への負荷が少なく、成長期の子どもたちが安全にできる運動の一つ。

公立の小中学校にプールがあるというのは、世界的にとても珍しいようだ。別の記事（※3）によると、文部科学省の調査では公立小学校の屋外プール設置率は、2018年度に94%に達している。水泳教育に詳しい鳴門教育大学の松井敦典教授は「オランダやドイツも水泳授業はあるが公営プールで行う。国際学会で日本の公立校の多くにプールがあると話すと驚かれる」と語っている。

2014年に高校生ら約300人が犠牲となった「セウォル号」沈没事故を受け水泳の授業に力を入れる韓国でも、小学校のプール設置率は2%程度だという。恵まれた環境にある日本で水泳に親しむ機会を維持していくたいと、多くの方は考えるのではないだろうか。

今年度、諏訪郡原村にある村立原小学校では、原村教育委員会と原村生涯学習課スポーツ係の共催で2日間の夏休みプール開放を行った。コロナ禍で中断してから数年振りのプール開放は、ボランティア募集で集まったPTAの方々が見守る中、楽しそうに泳ぐ子どもたちで賑わっていた。

この先、それぞれの地域の実情に合わせた形で水泳の授業が変化していくだろう。そのときに保護者や地域住民がどうかかわっていくのか。ボランティアのあり方など課題はさまざまあるが、子どもたちが水泳に親しめる環境を維持していくよう考えていきたい。

出典

*1 読売新聞オンライン/2025年9月19日

【水泳授業を続けるのかやめるのか…水中感覚や水難対策に必要、施設老朽化で維持困難】
<https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20250918-OYT1T50156/>

※2 時事ドットコムニュース/2025年03月22日

『6年生の半数、50メートル泳げず コロナ禍で習う機会激減一豪』

<https://www.jiji.com/jc/article?k=20250>

※3 読売新聞オンライン/2024年8月11日

『世界的に珍しい学校のプール、熱心な水泳授業は武芸が由来?…見直される学ぶ目的』



岡谷市立岡谷北部中学校では、老朽化した同校のプールをビオトープに再生する取り組みを始めた。使われなくなった施設をどうするかは全国共通の課題だが、完成したビオトープはきっと新たな学びの場として子どもたちが集う空間となるだろう。

編集後記

編集長 神田和幸



- 特集の取材でお話してくださった柴田勝幸先生、水倉美和子校長先生はお二人とも語り口が柔らかく、すべてを包み込むようなやさしさにあふれた先生でした。それぞれの教室・学校では、一人ひとりの個性を大切にしながら子どもたちが安心して学び、力を発揮する環境が整っていると感じました。今回の新聞が、水泳学習を含め地域の実情や子どもたちのニーズを踏まえた学びの場について、改めて考える一助となれば幸いです。

◎神田 和幸（高山小長）
○中村 深志（大豆島小頭）
大日方 光子 山岸 優子
中島 真紀子 樋川 善史
柳澤 加奈子